

北海道整形外科外傷研究会の歴史

代表 札幌中央病院 荒川 浩

大学ではあまり扱われない新鮮外傷を対象とした、日ごろ経験している症例を持ち寄り遠慮なく話し合う症例検討会のようなものが欲しいとの声に、故三国義博（当時・札幌市立病院）、故伊藤孝（いとう整形外科病院）、原田裕朗（当時・札幌幌南病院、現・東京で開業）、渋谷昭雄（小樽・渋谷整形外科病院）、青柳孝一（当時・市立病院、現・札幌中央病院）の諸先生が発起人となり、札幌近郊の北大整形外科同門の先生方に呼びかけたことに始まる。

昭和50年6月13日、それに応じて24名が集まり、第1回が三国先生を代表に、現・大日本住友製薬のご支援を頂いて研究会を立ち上げ、将来の発展を信じ“大胆にも”「北海道整形外科外傷研究会」と名づけてスタートした。

当初は、まだ乾いていないX線フィルムもシャーカステンに貼り、ビールと夕食を戴きながらサロン風の和やかな会（時には酒の勢いで過熱した議論・喧嘩も...）を幹事持ちまわりで隔月開催していたが、第6回からは症例検討のほかに主題を設けて集中的に討議するようになった。

第16回（昭和52年）には「教育研修講演」を企画、第1回目には北里大学の山本真先生を講師に招いて「骨接合術の工夫」を、その後も随時、井上四郎（岐阜歯科大学）、糸満盛憲先生（北里大学）、桜井修（兵庫医大）の諸先生に講演をお願いした。昭和57年から年3回の開催とし、第46回（昭和58年）に改組して全道にオープンとし、伊藤孝先生を二代目代表に据えて、会員も75名に増加するなど順調に発展してきた。

第50回記念大会（昭和59年）「日常よくみられる骨折 - 転子部・下～顆上～下腿骨折 - あなたならどうする」を企画して山本真、平川寛、井上博、安田金蔵、飯田鷗二、井上四郎など日本骨折研究会（現・日本骨折治療学会）の重鎮の先生方の参加を得て成功裏に終え、いささか全国的にも本会が認知されるようになった。

第53回（昭和60年）の奈良県立医大の玉井進先生による教育研修講演「四肢外傷における microsurgery の役割」には109名の参加（会員数112名）があり、その後は毎回主題を決め、それに関連した教育研修講演を同時開催して着実に会員数も150名を越えた。

次第に研究会としての体裁も整い、“生々しい経験と厳しい討論”を是非記録に残したいとの思いから、昭和60年から年1回、その年の発表を幹事に「要旨と質疑応答」を書いて頂き会誌を発行した。第4巻からは国会図書館に登録し、発表論文・質疑応答と教育研修講演を掲載し、平成元年の第5巻より掲載論文は投稿性として約150頁前後の機関紙に成長した。

整形外科領域で一地方の研究会として会誌の発行は数年遅れての「東海整形外科外傷研究会誌」（県立津久見病院・室捷之先生編集）があるのみで、“会員の誇り”（会誌16巻別冊・第100回記念号、発起人でもある青柳先生）でもあり、今後も是非続けて行きたいと思っている。

第78回（平成4年）には山口県立病院の弓削大四郎先生のご紹介で、Dudet 教授の高弟で国際的にも著名なパリ大学の Emile Letournel 教授に「骨盤骨折の観血的治療」の教

育研修講演を拝聴する機会も得た。

第 80 回記念大会（平成 5 年）を日本骨折研究会から山本真、平川寛、井上博、飯田鷗二、井上四郎先生を招いて講演会と脛骨高原骨折を主題として開催、本研究会の“末広がり”の発展を祈念し、平成 7 年より会の運営も評議員による合議制に移行したが、6 月に代表の伊藤孝先生が急逝され三代目を荒川が引き継いだ。

その後も会員は徐々に増え一時は 350 名を突破し、記念すべき第 100 回記念大会を平成 12 年 2 月 26 日札幌でも未曾有の大雪について（出席者 157 名）を開催、多数のゲストの中から骨折治療の問題や発展に向けた記念講演を 4 名、特別発言では各分野の実力者 5 名に 2000 年初頭に当たっての治療法の方針や未来に向けた夢などを語って頂いた（概要は第 16 巻別冊、第 100 回記念号に掲載）。夜は盛大に祝賀パーティーを開宴して楽しい思い出となった。

その後は 2 月、8 月の年 2 回開催とし、評議員の若返りを図りながら、評議員からその都度会長を決めて、主題を中心に症例検討、一般演題、講師を招いた教育研修講演をセットで土曜日の午後 3 時から 8 時頃まで缶詰状態で研究会を、終了後参加希望を募り講師を囲む会 - 酒の力を借りて本音を聞く - を開いて若手に好評を得ている。会誌第 19 巻からデジタル化もして札幌医大図書館に PDF 登録して公開し、年会費 8,000 円と会誌の広告掲載料により運営、今春第 23 巻を発行している。

更なる飛躍を期し 9 年 2 月の第 115 回研究会の翌日、初めての試みとして若手整形外科医を対象とした「第 1 回外傷研修セミナー」を開催した。評議員の土田芳彦先生の肝いりで会員の手作りで、主題は上肢の外傷とし市立札幌病院の講堂を借りて中堅の会員・評議員、札幌大から支援を頂いた 2 名の計 9 名の講師により午前 9 時から午後 4 時までの中身の濃い研修の企画となった。

今回は初回にも拘らず 50 名以上の参加があり、それなりの評価が得られたとの感触はあったが、整形外科を志す研修医の外傷に関する初期研修の場が十分でないとの指摘があるなか、今後定期的な開催も視野に入れ、若手整形外科医の研修の場として定着し、本研究会と共に発展させていければと願っている。

現在までに本研究会の教育研修講演などで道外から延べ 80 名を超える諸先輩にお世話になりながら今日を迎えているが、今後益々関連学会・研究会とも交流を重ね、「継続は力なり」をモットーに、発表論文や運営などに関しても IT 化を進め、メールで評議員会の情報交換の迅速化、ホームページの開設など時代の流れに十分対応した運営を心がけている。